

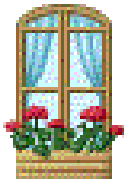
# 島根の地域医療

第7号

島根県健康福祉部医療対策課 '04. Mar. 24

e-mail:iryuu@pref.shimane.jp

▲いつでもどこでも適切な医療が受けられる島根を目指して▼



## ◇医師確保、新対策へ。

事務局からこんにちは！さっそく本題です。

島根では医師が足りません。従来からそうであった訳ですが、今はへき地だけでなく、また特定の診療科だけでなく、方々で不足が生じています。ここまで深刻になると病院の院長さん・事務長さんに頑張ってもらわないと、などと言っておられません。我々行政も各大学を回り個々の医局に相談するとともに、県外で勤務している県出身医師のところに度々足を運び帰ってもらうようお願いするなどしています。

そうした中で医師の方から出た意見が、「自分たちも専門医として腕を磨くため若いうちに優秀な指導医がおり症例の多い病院で勉強したい」、「医師としての勤務設計や、家庭を持つ身として生活設計を考えなければならない」「一人医長制での勤務はつらい、少なくとも土日は休める応援体制が最低条件」といったものでした。医師の希望に応える形での勤務が何とか考えられないだろうか？！これが新たな制度づくりのポイントでした。



『専門医養成プログラム』は県内の大規模病院に協力してもらいながら、医師にとって勉強になる大病院勤務もできます。ただし、地域の中小病院にも行ってもらいます。また、医師としての勤務設計や家族との生活設計ができるよう、約10年から15年の勤務ローテーションを本人と相談のうえで組むよう考えているところです。一人医長制の中小病院勤務にあたっては応援医を派遣する予定です。さらに、医師の立場で相談に乗るサポーターを置くとともに、こうした医師仲間が気軽に集まって情報交換をしたり、親睦を深める場も準備します。島根が勤務するうえで居心地がよいといってもらえるよう頑張ります。

【医療対策課 井上】

## 地域医療最前線その8

### 防災ヘリ“空の救急現場から”

160件に達した15年の出動要請に対応した現場から次の2点を訴えたくペンを執りました。それは顕著になってきた潜在需要と対応能力についてです。

160件の内急患搬送を始めとする救急は135件ですが4年前までの1.7倍です。ここ3年間は毎年増加しています。この原因は人口の高齢化などとともにヘリコプターの効用の認知度の高まりが考えられます。まだ潜在需要があると思えるのは、消防や市町村職員、また開業医から病院の医師の全てがヘリの要請を選択肢に入れているとは思えないからです。

次に対応能力ですが、十分とはいえません。要請が多くなり、防災ヘリ本来の役割である、多様な災害に備えた能力維持のための訓練時間の確保が困難になりつつあります。また、現場救急などに対応するヘリ搭載資機材の不足があります。

増加する要請に的確に対応するためには今のうち能力を高める措置が必要です。例えば国の補助事業のドクターヘリ導入やヘリ搭載医療資機材の充実(例：除細動器)などがあげられます。また各地ヘリポートの完備が必要です。例えば、松江市内に夜間離着陸できる場所はありませんので出雲空港から病院までのロスタイムがあります。これらの改善措置を執ることは医師不足を補ううえでも必要ではないでしょうか。実施に向けて皆様方の声も必要です。

防災航空隊も基盤整備的なことには限界がありますが、セクトにこだわらずあらゆる努力をしています。島根ヘリの都合が悪い時は、海上保安庁、航空自衛隊、鳥取県ヘリなどを調整し消防・市町村に代わって県として要請します。県西部についても山口と相互応援することを検討中ですので、近く補完体制が整うと期待しています。

また、要請してもいいのか、費用は誰が払うのか、方法は？などと疑問をお持ちですが、答えは、医師の所見などを元に消防又は自

治体が要請すれば、ただです。救急車と同じです。電話とファックスで十分です。要請後の空振りを恐れる必要はありません。迷う前に要請しておけば安心でしょうし、中止でも隊員の出動訓練に有効と考えています。要は要請すれば助かったのという結果を出さないことだと思います。従って需要があれば遠慮無く要請すべきと考えています。

隊員は人命救助に燃えて24時間待機しています。時々助かった方からお手紙や、直接来所されてお礼を述べていただきます。危険が伴いますがもっと頑張ろうと闘志がわいてきます。

財政的な困難さがありますが無い県故に、生命を守る最低限の措置を優先すべきではないかと現場では感じています。

【島根県防災航空管理所 二百田】



### 県のドクターバンクから

#### ●求人・求職取扱状況

(平成16年2月29日現在)

#### <求人> 26件

邑智郡(病院)/整形外科、精神科  
鹿足郡(病院)/内科  
浜田市(病院)/内科  
飯石郡(病院)/内科  
出雲市(診療所)/胃腸科、肛門科  
邑智郡(病院)/内科、整形外科、在宅医療  
益田市(病院)/精神科  
隠岐郡(その他)/不問  
鹿足郡(病院)/内科、外科  
仁多郡(診療所)/内科  
出雲市(診療所)/在宅医療  
那賀郡(診療所)/内科  
鹿足郡(病院)/放射線科、内科、麻酔科  
益田市(病院)/内科、循環器内科、神経内科、呼吸器内科  
松江市(病院)/内科、麻酔科  
浜田市(病院)/内科、放射線科  
江津市(病院)/精神科  
仁多郡(病院)/整形外科、眼科、内科  
松江市(その他)/不問  
邑智郡(病院)/泌尿器科、放射線科、産婦人科  
八束郡(病院)/内科、リハビリテーション  
松江市(その他)/不問  
仁多郡(診療所)/内科、小児科  
大原郡(病院)/麻酔科、精神科  
出雲市(病院)/内科  
松江市(その他)/内科

#### <求職> 0件

●申し込み手続き及び詳細につきましては、当紹介所までお問い合わせ下さい。

[電話番号] 0852-21-8813 (専用)

【担当：戸谷・吉岡】

## ◇島根県保健医療計画を策定します

先日16日に島根県医療審議会を開催しました。そこでは来年度から5年間の保健医療を方向付ける新たな島根県保健医療計画について意見答申をいただき、今後の施策の基本指針が定まりました。これから装丁の見栄えを整え、印刷してお目見えするのは4月初めになるかと思っています。

計画では各医療圏域ごとに基準病床数を定めていますが、今回の改定では、今後平均在院日数が短縮化していくことが見込まれることから、この分の要素を加味して算定しています。医療施策の中でも、在宅で療養できるような医療体制の整備を目指しています。もちろん高度な医療については、基幹的な病院において現在の機能が保たれ、より向上できるように内容を定めました。

医療機能を充実させていく上での指標として、入院の自圏域内完結率（それぞれの圏域ごとに住民がどれだけ圏域内の病院を利用し

ているかの率）8割以上を目指すこととしています。

特に大きな目玉は、今号でもご紹介している「しまね地域医療支援センター」による専門医養成プログラムなどの新規施策を盛り込んだことです。

また、健康増進法の趣旨に則り、健康長寿に関する施策も充実させて、平均寿命を男性で全国10位以内、女性は1位を目指します。



県民すべてが「いつでもどこでも安心して医療が受けられるように」という願いを実現するため、医療機関はもとより、関係する方々とも十分連携しながら医療機能の充実のため努力していくこととしています。

【医療対策課 花田】

## ◇〰〰風に吹かれて〰〰

先日、隠岐島後の公立医療機関の視察に出かけてきました。私は県立中央病院での初期研修後、1年6ヶ月間隠岐病院で勤務しました。つい最近のこのように思いますが、昭和50年台後半のことですから、早いもので20年経ちました。今回は隠岐島を簡単に紹介させていただきます。

隠岐諸島は島根半島の北東約40～80kmにあり、180余りの島からなっています。有人島は4つあり、本土から前方にあたる西ノ島、中の島、知夫里島をあわせて島前と呼び、後方を島後といいます。隠岐島には7つの町村があり、全体で約2万5千人が住んでいます。

昭和38年に島根半島、大山、三瓶山とともに国立公園に指定されました。国賀、白島、浄土ヶ浦および知夫赤壁など雄大な景観を有し、後鳥羽上皇、後醍醐天皇行在所跡などの文化財、牛突き、牧畑等隠岐固有の資源に恵まれ、全国に誇りうるものが多くあります。また、近年マリンスポーツの地としても注目されています。

医療に関しては、平成11年に県と隠岐島7ヶ町村で設立した隠岐広域連合において、隠岐圏域の中核病院である隠岐病院と、島前地区の中核である隠岐島前病院を一元的に運営し、連携強化と運営の効率化を図るとともに、療養病床や高度な医療機能の整備を図るなど総合的な医療提供体制の充実に努めております。また、病院と診療所間での医師の相互交

流を行うブロック制を活用し、地域医療の充実に努めております。地理的条件、交通事情等を踏まえ、CT、MRI等の画像診断に関しては、遠隔医療支援システムにより県立中央病院等の専門診療科の医師と即座に相談できますし、島内では治療の困難な救急患者については、本土側病院医師が同乗するヘリコプターによる緊急搬送制度を用いることが可能です。

今回の視察で改めて医師、看護師をはじめ、医療従事者のマンパワー不足を痛感いたしました。また今後交付税等を含めた医療機関への運営費補助も大きく減少することが予想されています。隠岐島において備えるべき医療機能、医療従事者の確保策の再検討を要するとともに、従来以上に連携を密にして経営に取り組む必要があると感じました。

【医療対策課 木村】

## None Blue Rose



かつてナポレオンは言った。「状況？何が状況だ！俺が状況をつくるのだ」。余の辞書に不可能なしも言った彼が、決して自意識過剰な夢想家でないことが分かる▼うまくいかないのを状況という環境のせいにしたときに可能性の扉は閉じられる。構成員が「わが組織はどうなるのだろうか」と考え始めたら、組織は衰退し始める。客観的な目は必要だが、一員として全力で自分の任務を創造していくことが大切だ。組織の浮沈は、今その時の構成員がどのような意志力を持ち、行動するかの総和で決まる▼島根県庁も大きな組織である。だから私たち職員が自分にできることを問うのを忘れ、今までどおりでいい、と思う者ばかりになれば、県行政が人びとに寄与してきたことは過去のものとなる。時代錯誤だと言われようが、行政マンは住民のために智力を絞り、行動を結実させていくべきである▼医師確保と医療充実に待ったなし。新年度となる。これからも私たちは大いなる覚悟で前進する [F]

青い薔薇は園芸家の夢、藤紫、明藤色はあっても真の青はないとのことでBlueRoseは不可能という意味。NoneBlueRoseは私たちの地域医療への熱いメッセージです。



## 島根県庁医療対策課の連絡先

E-mail : iryuu@pref.shimane.jp  
TEL : 0852-22-5251  
ホームページ[島根の医療] :  
http://www.wah.pref.shimane.jp/med/

## 医師不足への支援策強化

### 県が保健医療計画概要

県は十五日、医療環境の変化などに対応した「県保健医療計画」（2004～08年度）の素案を県医療審議会に示した。医師不足に悩む地域への支援を強化するほか、災害、感染症などの危機管理体制の充実を盛り込んだ。

同計画は1979年に作られた。近年生活習慣病にかかる人が増えたことや医師不足が深刻化したことなどから、新たな計画策定を決め、昨年六月から作業を進めていた。

計画は現状認識や保健医療施策の方向性など五章で構成。医療施策では、新たに県内に「しまね地域医療支援センター」を設置。総合・専門診療科の医師を全国から公募するほか、専門医が市部の大規模病院と町村の中小病院をまたがって勤務できるようにするなど、県内各地に安定的に専門医を派遣するプログラムを作る。

原子力災害や新型肺炎(SARS)など万一の事態に対応するための危機管理も明記。SARSなどへの対応では、現在未整備の第一種感染症指定医療機関の整備(二床)を急ぐ。

県は一月下旬から県民意見を募集。法的手続きを経て本年度中に計画をまとめる方針。

【山陰中央新報04.1.16より抜粋】